

愛知県(県域)

1 産地の概要

＜対象品目＞ 施設トマト類

＜産地の現状・課題＞

愛知県の施設トマト類産地では、環境モニタリング装置を取り入れた環境制御技術の確立を県域的な課題として取り組み、各産地において増収を実現してきた。近年は、みどりの食料システム戦略や消費者志向の変化を受けて、環境に配慮した病害虫の防除体系の確立に向けた機運が高まっている。そこで、灰色かび病やコナジラミ類の薬剤に対する耐性獲得情報による適切な薬剤選定、ハウス内環境測定による灰色かび病発生リスク解析を参考とした防除、生物農薬等の活用によるコナジラミ類の防除を検証し、県全体のトマト産地の化学農薬低減と省力化を図る。

2 検討体制

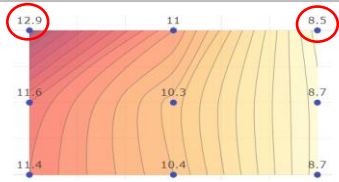
- ・農業経営課(事務局)
- ・農業革新支援センター(事業のコーディネート、検討会の開催、産地戦略の作成、先進研究等の調査)
- ・普及指導センター(JA及び農業者との調整、実証ほの進行管理・調査、技術指導)
- ・農業者(実証ほの栽培管理、技術の検証)
- ・JA(農業者との調整、技術指導、調査補助)
- ・JAあいち経済連(資材情報等の提供、コナジラミ類の薬剤抵抗性検査の実施)
- ・(株)IT工房Z(ハウス内環境データの測定、灰色かび病発生リスクの解析)



感受性検定のための
試料採取



環境の多点計測に
用いた測定機器



ハウス内ヒートマップの
作成

3 グリーンな栽培体系

＜環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術＞

取組項目	作業段階	新たに取り入れる技術
化学農薬の使用量の低減	病害虫管理	＜取り入れる技術＞ ・Qol剤耐性検出手法、SDHI剤耐性検出手法による耐性菌発生状況調査結果および薬剤感受性検定の結果を活用した薬剤選定による灰色かび病等の防除技術 ・スマート農業機器(ハウス内環境測定器)を活用した灰色かび病の発生リスク解析 ・バイオタイプに対応したタバココナジラミの薬剤感受性検定を活用した薬剤選定による防除 ・生物農薬の施用 ・生物農薬のダクト内施用によるタバココナジラミの防除

4 活動内容及び得られた成果

＜活動内容＞

- ・スマート農業機器を活用した灰色かび病の発生リスク解析及び生物農薬(天敵、微生物農薬)の利用に関する実証ほの設置
- ・薬剤感受性検定の実施

＜実証結果＞

- ・スマートの農業機器の情報に基づく灰色かび病発生リスクアラート、ヒートマップを活用したハウス内環境の改善
- ・感受性検定結果に基づく、適切な薬剤選定による防除の実施
- ・天敵または微生物農薬の活用による化学農薬使用量の削減

5 今後の展開

トマト産地の化学農薬低減と省力化を図るため、栽培マニュアルを活用した技術展開を進める。